

2017. 7. 18 事業者のためのリスクコミュニケーションセミナー

リスクコミュニケーション 取組事例

-日本製紙(株) 石巻工場-

安全環境管理室 環境管理課
関根 彩

◆報告内容

- ・ 日本製紙 石巻工場の紹介
- ・ リスクコミュニケーションの準備
- ・ 当日の状況
- ・ アンケート結果

◆日本製紙 石巻工場の紹介

- 1938年（昭和13年）設立
- 石巻湾岸にある臨海工場

● 工場周囲状況

[西・南] 工業港

[北] 住宅地

[東] 復興祈念公園予定地



◆日本製紙 石巻工場の紹介

洋紙事業



洋紙生産能力

約86万 t/年

- 抄紙機 6台
- 塗工機 2台
- パルプ設備 6系列



◆日本製紙 石巻工場の紹介

エネルギー事業

ボイラー5基

タービン5基



バイオマスボイラー

#1BB (180t/H)

回収ボイラー

#5RB (190t/H)

#7RB (150t/H)

微粉炭ボイラー

#8CB (450t/H)

重油ボイラー (予備缶)

#6OB (165t/H)

タービン

N1TG 40,000KW

#3TG 26,000KW

#4TG 24,000KW

#5TG 18,300KW

#6TG 98,000KW

◆日本製紙 石巻工場の紹介

リサイクル事業

～廃棄物であった焼却灰を製品へ

■エコツブアッシュ

-バイオマス灰を利用した土木資材-

- ・ 締固め良好
- ・ 防草性



■CfFA

-石炭灰を利用したコンクリート混和材-

- ・ コンクリートの
長期強度を増進



◆報告内容

- ・ 日本製紙 石巻工場の紹介
- ・ リスクコミュニケーションの準備
- ・ 当日の状況
- ・ アンケート結果

◆当社のリスクコミュニケーション 取組み状況

- ・ 2007年より毎年開催、今回で9回目

工場見学 ⇒ 懇談会

- 環境データ説明
- 環境対策、防災対策
- 新規事業などのトピックス

<悩み>

毎年同じような内容でマンネリ化していた

⇒**2016年度** 宮城県様にご協力頂いた

◆事前準備

3カ月前 宮城県様と打ち合わせ（※今回のみ）

2.5ヶ月前 社内日程調整

1.5ヶ月前 スケジュール決定、案内配布

2週間前 出欠確認、名簿・名札作成

当日(11/8)午前 会場準備
午後 リスクコミュニケーション開催

◆報告内容

- ・ 日本製紙 石巻工場の紹介
- ・ リスクコミュニケーションの準備
- ・ 当日の状況
- ・ アンケート結果

◆当日の参加者

地域住民（6町内会×各2名）	12名
石巻市	2名
宮城県	2名
化学物質アドバイザー※	1名
傍聴者（県内事業者）※	14名
日本製紙	8名

※今回のみ

◆当日のプログラム

15:15～16:20

工場見学

（紙の製造、発電設備、排水処理設備）

16:25～16:35

工場長挨拶

16:35～17:20

懇談会

17:20～17:25

質疑応答

◆当日のプログラム

16:35~17:20 懇談会 詳細

- ・ リスクコミュニケーション事業説明
-宮城県-
- ・ 化学物質のリスクとは
-化学物質アドバイザー-
- ・ 環境対策（PRTR,大気排水廃棄物）
- ・ 苦情状況と対応
- ・ 新規事業紹介
- ・ 防災対策

◆質疑応答

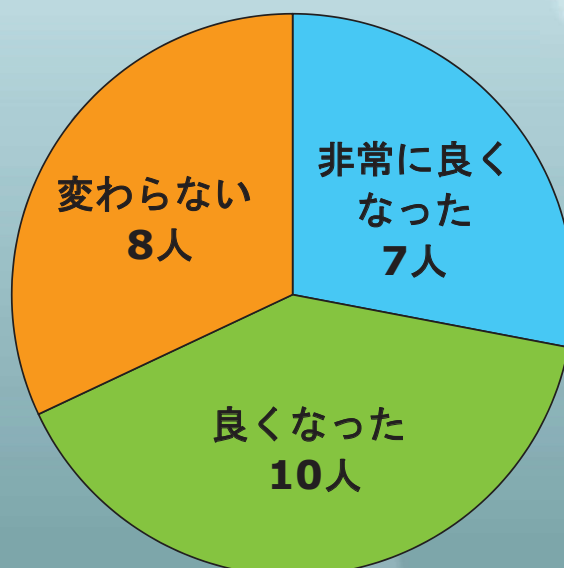
- ・ 特になし
(工場見学時や立ち話などで
コミュニケーションがとれていれば
良いと考える)

◆ 報告内容

- ・ 日本製紙 石巻工場の紹介
- ・ リスクコミュニケーションの準備
- ・ 当日の状況
- ・ アンケート結果

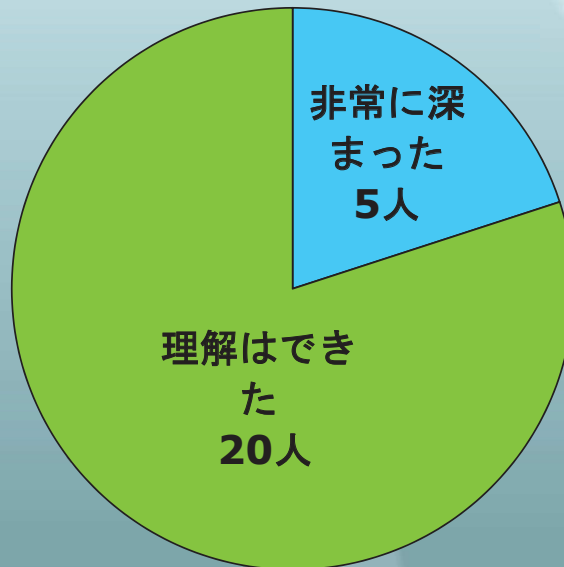
◆ 事後アンケートの結果

【Q1】 日本製紙に対する印象



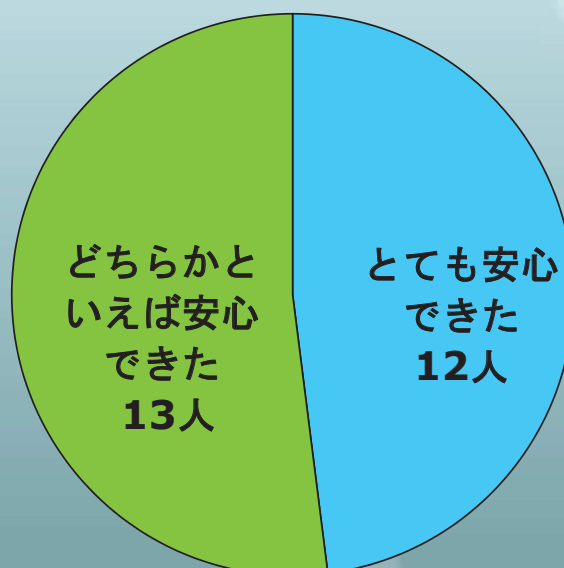
◆事後アンケートの結果

【Q2】日本製紙に対する理解



◆事後アンケートの結果

【Q3】日本製紙の取組みを知って安心できましたか？



◆事後アンケートの結果

【Q4】日本製紙について、もっと詳しく
知りたい情報がありますか？

- ・ 廃棄物の処理 **10人**
- ・ 地域貢献 **10人**
- ・ 地球環境問題への対応 **6人**
- ・ 工場の生産活動 **1人**

◆事後アンケートの結果

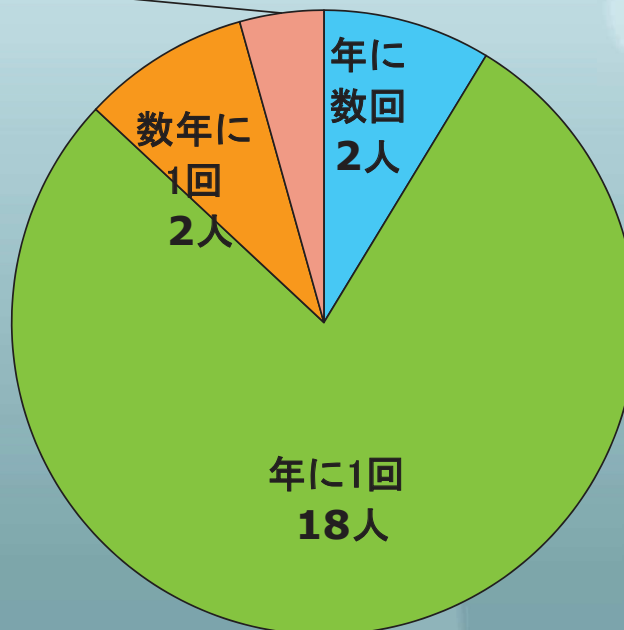
【Q5】化学物質管理について、もっと詳しく
知りたい情報がありますか？

- ・ 使用後の処理を見たい **11人**
- ・ 処分場を見たい **5人**
- ・ 使用量をもっと詳しく知りたい **3人**
- ・ 有害な物質の使用状況を見たい **3人**

◆事後アンケートの結果

【Q6】リスクコミュニケーションの適切な頻度

必要のある
ときだけ
1人



◆実施後の感想

- 化学アドバイザーの講演でいつもと異なる新鮮なリスクコミュニケーションとなった
 - アンケート結果により、地域住民が知りたいことがわかった
- ⇒今後のリスクコミュニケーションに活用していきたい